

EPO東北 運営第7期 (R7-9年度)

令和7年度 活動レポート



東北環境パートナーシップオフィス (EPO東北)

Environmental
Partnership
Office Tohoku



EPO TOHOKU

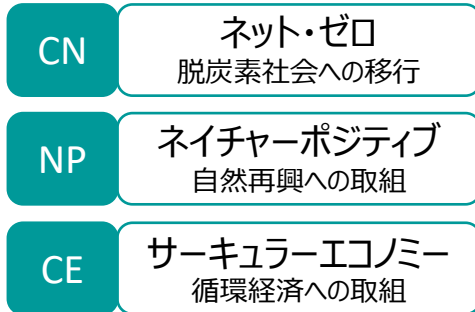
■ 法律に基づいて設置された拠点

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」

- ◆ 第19条第1項に基づく拠点として 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）及び環境パートナーシップオフィス（EPO）が設置されました。
- ◆ ブロックごとに環境省地方環境事務所と地域の多様な主体が協働で運営しています。

■ 環境省の重点政策

環境問題と
経済・社会的問題の同時解決



環境省の政策を地域で実装していくための『中間支援拠点』

地域の自治体、企業、NPO、教育機関などをつなぎながら、対話の場づくりやネットワーク形成を行い、政策を地域の具体的な取り組みとして動かしていく役割を担います。

【全国8カ所に設置】



EPO東北

【開設】 2006年7月

【請負団体】 公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

- 環境活動を促進するために人と人をつなぐ拠点となることを目指しています。
- たくさんの方がEPO東北をきっかけにして出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

地域×Tech東北への出展

【日時】令和7年8月27日（水）～28日（木）
【会場】仙台国際センター 展示棟（宮城県仙台市）
【主催】株式会社あわせ

持続可能な地域づくりのために必要な最新テクノロジーやサービスを地域に直接届けることを目的に開催する展示会・セミナー「地域×Tech東北」に環境省が出展し、EPO東北はブース運営に協力しました。地域循環共生圏の概念、東北で実施されたモデル事業の取り組み紹介の他、自治体向け地域脱炭素人材育成セミナーや地域循環共生圏フォーラム、グッドライフアワード募集の告知を行いました。

多くの企業・自治体の参加があり、「地域循環共生圏」という概念に関心を持つ来場者の方も多く、用意した資料280セットを配布しました。



ゼロカーボンの実現に向けたユース交流会in青森

【日時】令和7年10月18日（土）～19日（日）
【会場】青森産業会館（青森県青森市）
【主催】EPO東北

ゼロカーボン実現を目指して環境活動に取り組む青森・岩手のユースグループを対象に、活動交流と発信力強化を目的とした交流会を実施しました。青森県地球温暖化防止活動推進員として活動する高校生・大学生、廃棄されるホタテ貝殻の歯ブラシを開発し企業した大学生、岩手県内3大学の連携による学生プロジェクトチームに参画する大学生、岩手県庁の岩手職員が参加しました。

本交流会はユースの活動を広く発信することを目的に「あおり環境フェア」の中で実施し、ブース出展およびステージ発表でのトークイベントを行いました。来場者との交流および同世代の交流を通して、伝え方や企業との連携など、今後の活動の発展に向けた学びを深める機会となりました。



気候変動ゼミ

- 【日 時】 令和7年11月24日（月祝）
- 【会 場】 八戸ポータルミュージアム1階 はっちひろば（青森県八戸市）
- 【主 催】 八戸市
- 【共 催】 EPO東北
- 【参加者】 39名

八戸市主催の環境教育推進事業「気候変動ゼミ（全3回）」を共催しました。講演では生物多様性に関する国内外の動向（ネイチャーポジティブ、自然共生サイト等）を解説し、地域の取り組み事例として八戸市内の団体による活動紹介を行いました。また、登壇者間の対談では「気候変動と生物多様性の相互関係」をテーマに意見を交わし、環境政策と地域での取り組みのつながりや、複数の環境課題の同時解決性など、多角的な視点から論点の整理と考察を行いました。

アンケートでは印象に残ったキーワードとして、「違いや個性があるからこそ多様性は豊かになる」「生物多様性は地域を支える・発展のために必要なこと」などがあげられました。



杜の都ネイチャーポジティブフォーラム

- 【日 時】 令和8年1月22日（木）
- 【会 場】 仙臺緑彩館 交流体験ホール（宮城県仙台市）
- 【主 催】 杜の都ネイチャーポジティブセンター（事務局：仙台市環境共生課）
- 【共 催】 東北大学COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点 EPO東北
- 【参加者】 会場参加 135名、オンライン視聴36名（最高瞬間視聴率32名）

仙台市はネイチャーポジティブ実現を促進する組織「仙台市地域生物多様性増進活動支援センター（通称：杜の都ネイチャーポジティブセンター）」を設立しました。ネイチャーポジティブ促進に向けた周知とネットワークづくりのため、設立記念イベントを共催しました。

基調講演、2つの事例紹介が行われた後、会場では参加者との交流・マッチングの時間が設けられ、活発な情報交換が行われました。



令和7年度 東北管内自然共生サイト 認定証授与式・シンポジウム

- 【日 時】 令和8年3月23日（月）
- 【会 場】 TKP仙台青葉通カンファレンスセンター ホール8B（宮城県仙台市）
- 【主 催】 環境省 東北地方環境事務所
- 【共 催】 EPO東北
- 【参加者】 66名

環境省では令和5年度から「民間の取組などによって生物多様性の保全が図られている区域」を“自然共生サイト”に認定する仕組みを開始しました。令和7年度第3回で認定された自然共生サイトのうち、東北ブロックに所在する11団体を対象とした認定証授与式を共催しました。

自然共生サイトの意義や価値、捉え方を提案する講演の後、参加した認定サイト21団体による活動紹介「1分ピッチ」を実施しました。その後の情報交換会では参加者同士の交流が活発に行われ、有意義な交流の場となりました。



みちのく薪びと祭り

- 【日 時】 令和7年11月15日（土）～16日（日）
- 【会 場】 西郷村文化センター（福島県西郷村）
国立那須甲子青少年自然の家（福島県西郷村）
グランディ那須白河ゴルフクラブ（福島県西郷村）
- 【主 催】 白河高原薪の会、ふくしま薪ネット、一般社団法人湯本森・里研究所、EPO東北
- 【共 催】 中国地方環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）
- 【協 力】 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
- 【参加者】 69名

EPO東北では、2014年（平成26年）より、森林エネルギーに焦点を当てた地域交流イベント「みちのく薪びと祭り」を開催しています。東北各県から関係者が集い、薪・森林等の地域資源に関する話題や課題を「考える・学ぶ・語り合う」機会を通じて、ゆるやかなネットワーク構築と、活動の促進を目的としています。

東日本大震災後から続く福島県内の森林モニタリング等の講演、福島県内で活動する7団体・個人による活動報告、参加者全員で議論を深めるトークセッションを実施しました。翌日は白河高原薪の会が主催する「第8回ゴルフ場 森の教室」へ参加し、フィールド体験を行いました。



令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

地域資源を活かした持続可能な自立・分散型社会の構築を目指し、各地の取組を支える「中間支援主体」の担い手を増やし、支援体制の強化を図る環境省事業です。地域の活動団体と中間支援主体が協働し、地域資源を活用した事業の構築に取り組んでいます。令和7年度は新規・継続合わせて26団体が選定されました。

EPO東北は東北地方環境事務所と共に「地方支援事務局」として東北ブロックで採択された3案件の伴走支援を行いました。

東北ブロック中間共有会

【日時】 令和7年10月8日(水)～9(木)

【会場】 にしかわイノベーションハブTRAS (山形県西川町)

【主催】 EPO東北

東北ブロックで採択された3案件および地域循環共生圏プラットフォーム構築事業の卒業団体、東北ブロック審査員をはじめとした本事業の関係者が一堂に会し、参加者同士の対話を深めることを目的にグループワークを行いました。第三者を交えた議論の結果、地域の課題構造や背景を客観的に捉え直す機会となりました。

中間共有会をきっかけに、参加者間で視察交流や相互連携が生まれました。



【岩手県釜石市】

活動団体：株式会社かまいしDMC

中間支援主体：

一般社団法人ゴジョる

活動テーマ

豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅
Blue-Green-Sustainable
Journey(ビー ジー サス・ジャーニー)
持続可能な観光プラットフォーム構築



【宮城県石巻市】

活動団体：合同会社もものわ

中間支援主体：

一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン

活動テーマ

森と海を繋ぐ関係人口の創出と持続的な環境保全活動の推進



【山形県西川町】

活動団体：ツキノワ合同会社

中間支援主体：西川町地域資源活用
イノベーション推進協議会

活動テーマ

西川町をひとつの物語にするツーリズムの構築

